

## 緒言

本論では、ドラえもんに於ける文字表記の考察を行う。ドラえもんの出す道具は「秘密道具」か「ひみつ道具」か「ひみつどうぐ」か、「どら焼き」を「ドラヤキ」と書くのは F 先生の拘りなのか、などという類の疑問をもっと一般に敷衍しようとするものである。第一回目の今回は、ドラえもんの漫画の漢字の使い方(用字法)を考察したいと思う。

## 1、前提事項

先ず、ドラえもんの表記は本によって異なる事に注意する。例えばてんコミ本での表記と全集本での表記は異なる。最終的には異本同士の比較も行う必要が有るが、今回は第一回として全集本を底本に用いて分析し、これを今後の考察の基盤とすることにした。又、学年誌に掲載されたものはその学年によって漢字の使用が抑えられているので、今回は漢字使用の制約が少ないであろう大長編作品を用い、ドラえもんという作品の生の用字法に迫ってみたい。本稿では、近く公開の映画の原作「のび太の宇宙小戦争」(1984~1985)を対象とする。

## 2、方針

さて、今からいきなり分析しようと言っても、方向性が定まらないうちでどうしようも無い。そこで、ざっと漫画を通覧してぼんやりとした表記の特徴を見出し、これを仮説として設定する。大まかな傾向は以下の通り。

特徴 1：漢字率は和語より漢語の方が高い。 ⇒漢字表記率：和語<漢語

特徴 2：概ね当用漢字→常用漢字に準じた表記法である。

特徴 3：常用漢字の中でも教育漢字を中心とするが、漢語の場合はその限りではない。

ここで、用語の確認をする。「当用漢字」は昭和 21 年(1946)に内閣府が制定した漢字表であり、幕末明治以来の漢字制限論・廃止論の系譜に連なるものである。即ち日常における漢字使用を当用漢字表内にある 1850 字に制限するものである。「常用漢字」は昭和 56 年(1981)に当用漢字に代って制定されたもので、文字数を 1945 字に増やし、加えて「制限」を「目安」に変更したものである。公用文やメディアの漢字表記は概ねこの常用漢字表に従っている。また、現在義務教育で習う漢字は常用漢字表の 1945 字→2136 字(平成 22 最終改訂)である。故にこれらの表はドラえもんの表記にも影響を与えている可能性が高いので注目しなければならない。

「教育漢字」は常用漢字のうち、小学校の 6 年間で習う漢字 881 字(～昭和 55)→996 字(～平成元)→1006 字(～平成 29)→1026 字(～令和 3 現在)を言う。当然これもドラえもんの表記に影響を与えている可能性が高いため注視する。

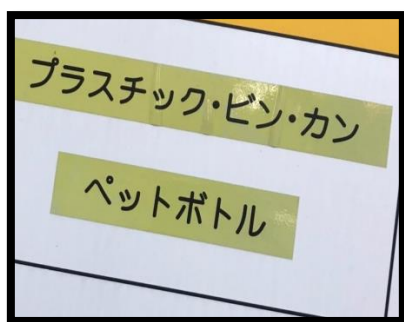
連載中に起こった国語改革として、昭和 48 年の当用漢字改正音訓表、昭和 56 年の常用漢字公布、昭和 55 年・平成元年の教育漢字変更は注意しなければならない。又、当用漢字表の使用上の注意に明記する所の「ロ 代名詞・副詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞は、なるべくかな書きにする。」「ホ 動植物の名称は、かな書きにする。」「へ あて字は、かな書きにする。」も念頭に入れておく。

では、先に挙げた所の三項を基に調査の方針を立てる。まず、漢語は常用漢字表内<sup>1</sup>にあるものならば漢字で書く。そして和語は教育漢字内にあるものならば漢字で書く。この 2 つを仮説として設定し、これに反するものに注目し用字法の特徴を見出してみたい。

### コラム：当用漢字の影響

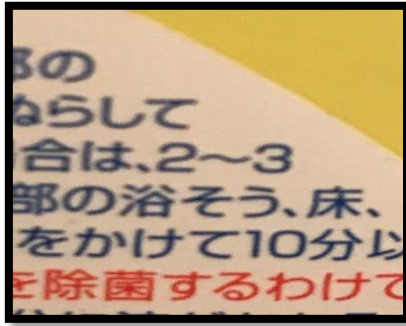
社会の近代化が叫ばれた明治～戦後暫くまでは漢字制限(制限・簡化・廃止等)が近代化を助けると考えられたこともあり、当用漢字の影響力は大きいものであった。その名残は漢字制限が撤廃(或は緩和)された現代でも見られるものである。例えば「蔓延防止」を「まん延防止」と書くのは、「蔓」が難しい字であるからではなく、常用漢字表に載っていないからである。ただ、常用漢字表が無ければ無いで、公式な文章で「結論(こたえ)が出ない」「超(スーパー)マーケットの設立」などと好き勝手書かれてもそれを制限する根拠が無いという事態になる。故に常用漢字表の類のマニュアルは必要な物ではあるのであろう。

又、漢字は難しいものという考え方は今に至るまで根強く、一度当用漢字・常用漢字から外れた字が後に再び採用されたとしても、直ちに仮名表記を漢字表記に直すというのは慎重になることも多い様である。また、当用漢字の影響で仮名表記がその業界の慣例になり、仮名表記を続けているという可能性もある。そのため、例えば下の「濯」「槽」など、常用漢字になってから 40 年以上経っても、今だに仮名表記しているものも各所で見られる。



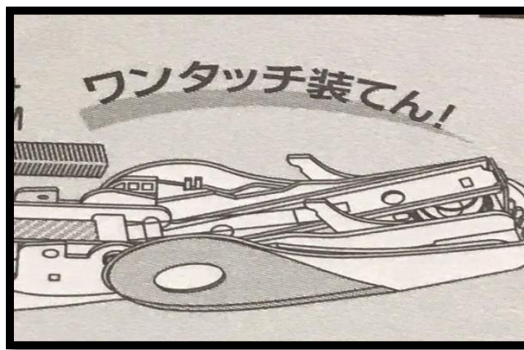
↑ 「缶」「瓶」は昭和 56 年に常用漢字追加、「箋」は平成 22 年に追加

<sup>1</sup> 今回は昭和 59 年～60 年の作品を対象とするので、当時有効であった常用漢字表(昭和五十六年内閣告示第一号)を基に考える。教育漢字は平成元年改訂のものを使う。



↑「槽」「濯」ともに昭和 56 年に追加

↓「填」は平成 22 年に追加



### 3、用字の実際と考察

#### 凡例

・いく (行) 「出ていけ！！」 414  
 ↑単語 ↑漢字表記の例 ↑台詞 ↑頁数

#### 和語編

##### (1)教育漢字にも関わらず仮名表記のもの

- ・あいだ(間)「長いあいだの夢が」 484
- ・あう(合・会)「タイミングがあうかな」 420 「やっとあえたと思ったら」 506
- ・あがる(上)「やああがれよ」 453 「燃えあがり」(複合)525
- ・形おく(置)「おいてくなんていってみろ」 528
- ・あける(明)「夜があける」 575
- ・昭 48 あげる(上・挙)「スピードをあげよう」 481 「総力をあげて」 555
- ・形あたり(辺)「このあたり」 490
- ・揺あたる(当・中)「見あたりません」(複合)489

- ⇒「予感……当たるかな」511
- ⇒「ついには体当たりして」515
- ・あつい(熱・暑)「あついなあ」462
- ・あてる(当・中)「解除光線をぼくらの体にあてる」566
- ・**昭48**あと(後)「ウサギのあとを追っていく」426
- ・あばれる(暴)「あばられる」491
- ・**昭48**あぶない(危)「あぶないなあ」558
- ・**副**あまり(余)「あまりおおぜいでは」528 「一キロあまり」558
- ・**揺**あらわれる(現)「独裁者があらわれたのです！」459
  - ⇒「しずかさんをはニヤしたら現れよう」498
- ・**形**いい(良)「五、六本でいいか」420
- ・**形**いう(言)「ビデオをとりたいていうんだろ」415 「ピリカという星」437
- ・**形**いく(行)「それでいこうか」418
  - ⇒「ちょっと先に行ってっ」418
- ・**動物**いぬ(犬)「イヌがペラペラよくしゃべる」505
- ・いま(今)「いまだとめて！！」432 「いまの音なあに？」486
- ・いりみだれる(入乱)「これがいりみだれて」420
- ・**形**いる(居)「いないものはいないんだ」427
- ・**形**いれる(入)「ごらんに入れます」473
- ・**当**いろんな(色)「いろんな道具」415
- ・**揺**うける(受)「攻撃をうけた」523
  - ⇒「ゲンブ氏の特命を受けて？」562
- ・**措**うしなう(失)「見うしなった」(複合)557
- ・うしろ(後)「うしろをたしかめる」422
- ・うつす(移・徙・遷)「安全な場所へ、うつしたほうがいいだろうな」466
- ・うつる(移・徙・遷)「総攻撃にうつれ」553
- ・おこす(起)「行動をおこさなくちゃ！！」523 「たたきおこす」533
- ・おこなう(行)「戴冠式がおこなわれる」523
- ・**昭52**おさない(幼)「おさない日」583
- ・**揺**おちる(落・墮・墜)「わが手におちた」553
  - ⇒「流星になって落ちていこう」537 「スピードが落ちて」558
- ・おちつく(到着)「おちついて！」546
- ・**熟**おとうさん(御父様)「おとうさんのおっしゃるとおりだ！」459
- ・**熟**おとな(大人)「おとなみたいな」438
- ・**代**おまえ(御前)「おまえもいっしょに」
- ・おぼえる(覚)「ピリカのイヌが最初におぼえるのは」509
- ・**当**おもしろい(面白)「きっとおもしろがって」416

- ・昭 48 おりる(降・下)「海へおりて」 575
- ・おわる(終)「すべてはおわったかと見えた」 505
- ・形かぎり(限)「命令しないかぎり」 427
- ・形かぎる(限)「そうともかぎらない」 524
- ・当かって(勝手)「ロボットはかってに動かないよ」 427
- ・副かならず(必)「かならず来る！」 496
- ・形かまう(構)「爆撃してもかまわん」 563
- ・きまる(決)「きまってるじゃないか！！」 506
- ・形きる(切)「きりかえましょう」 509 「ハンドルは(略)きりすぎない」 546  
「ききめは四時間でできる」 550
- ・当ぐあい(具合)「ぐあいどう？」 510
- ・形くいさがる(食下)「どこまでもくいさがり」 515
- ・形くる(来)「頭くる」 462  
⇒「ピリカという星から来ました」 437  
⇒「パピさんを捕えに来た」 501
- ・熟こち(心地)「住みごち」 441
- ・当こども(子供)「子どものくせに」 438
- ・昭 52こまる(困)「わすれちゃこまる」 507
- ・昭 48ころがる(転)「ころがっていないかな」 434
- ・昭 48さがす(探・捜)「さがそう」 427
- ・昭 52さぐる(探)「電波の発信地をさぐっていたんだが」 477
- ・措さしむける(差向)「主力をさしむけたほうが……」 553
- ・したがう(従)「ギルモア将軍にしたがうだろう」 460
- ・昭 48しめる(閉)「カーテンをしめとくわ」 468
- ・揺しる(知)「思いしらせてやる」(複合)469  
⇒「ぼく知らない」 447
- ・すぎる(過)「カメラの前をすぎて」 422
- ・当すてき(素敵)「すてきだと思わない」 417
- ・昭 52すてる(棄・捐・捨)「見すてて」(複合)437 「すてたものじゃないぞ」 489
- ・当すばやい(素早)「すばやく逃げたか！！」 489
- ・当すばらしい(素晴)「すばらしい手みやげ」 535
- ・すむ(済)「ちょっぴりですむ」 558
- ・昭 52そめる(染)「ヒゲなんか黒くそめちゃって」 522
- ・副たしか(確)「たしかにこのあたりから」 490
- ・たしかめる(確)「うしろをたしかめる」 422
- ・措だす(出)「とびだす」(複合)423  
⇒「悪役を出したい」 423

- ・副ただち(直)「ただちに小惑星帯の総攻撃にうつれ！！」553
- ・当たち(達)「スネ夫たち」416 「友だち」437
- ・形たつ(立・建)「基地を飛びたった」(複合)523  
     ⇨「立ちあがって」524
- ・形たて(建)「二階だて」441
- ・揺たば(束)「たばにしてぶちこんでやれ！！」553  
     ⇨「束になって来てもこわくない」457
- ・昭48ためす(試)「牛乳ぶろためしてみよう」483
- ・であう(出会)「こんど出あったときが」575
- ・形てつだう(手伝)「てつだうよ」416
- ・形つきあい(付合)「長いつきだいだからね」415
- ・形つぎ(次)「つぎはぬいぐるみが出るの」422
- ・揺つくる(作)「秘密基地をつくり」505  
     ⇨「あなたが作ったラジコンじゃないの」565
- ・昭48つける(付・着・就)「つけるとロボットになる」422 「仕事につける」446
- ・つげる(告)「パピにつぐ」492
- ・つたわる(伝)「ロケット内につたわった」517
- ・つづき(続)「つづきとろうね」436
- ・つづける(続)「走りつづける」422
- ・つれる(連)「公園へつれてって！」495
- ・形できる(出来)「アニメができたら」417
- ・揺でる(出)「出てこい！！でないこのまま沈めるぞ！！」595  
     ⇨「出てこい！！」595
- ・形てわけして(手分)「てわけして」427
- ・形とおりに(通)「おっしゃるとおり」459
- ・形とき(時)「八歳のときに」445
- ・副ときどき(時時)「ときどきふり返って」422
- ・とく(解)「なわをといて」586
- ・形ところ(所)「あてもなくさまようところから」422  
     ⇨「安全な所まで立ち去ってから」498
- ・ととのえる(整)「手はずをととのえている」523
- ・揺とぶ(飛・跳)「しげみからとびだすの」423  
     ⇨「これがいりみだれて飛びまわり」420
- ・とまる(止・留)「目にもとまらぬ速さ」558
- ・とめる(止・留)「とめてみよう」432
- ・とも(供)「大統領のおとも」547
- ・揺とりかえす(取返)「「スモールライト」もとりかえしたし」597

⇒ 「「スモールライト」を取り返すことだ」 507

- ・ とりこわし(取壊)「とりこわし中」
- ・ とりまく(取巻)「大きな輪がとりまいている」 513
- ・ とる(取、採、撮)「「宇宙大戦争」をとるの」 415、「出木杉をとられた」 420  
「連絡をとる」 523 「ピリカは平和をとりもどしました」 596  
⇒ 「取りもどす」 565
- ・ 措なおす(直・治)「とりなおししなくちゃ」(複合)433
- ・ なおる(直・治)「なんとかなおらない？」
- ・ 形なか(中)「ピリカ国民のなかには」 505  
⇒ 「町の中」 541
- ・ 揺ながい(長)「ながくはないぞ」 525  
⇒ 「そう長くもたない」 434
- ・ 代なに・なん(何)「なにをしてたの」 421  
⇒ 「何者かに」 534
- ・ 形ねがう(願)「おねがい」 427
- ・ のこす(残)「のこしてきた仲間」 459
- ・ のぞみ(望)「のぞみをすてるな！！」 576
- ・ のぞむ(望)「のぞんでおられる」 460
- ・ 揺のる(乗・載)「ピリカ星へのりこもう！！」 479  
⇒ 「「空気砲」を持って乗りこめば」 480  
⇒ 「ウサギになにか乗ってるように見えるけど」 433
- ・ はげしい(激)「はげしいのとりたいな」 418
- ・ はじめて(初)「ラジコンにさわるのがはじめて」 546
- ・ はじめる(始)「さっそくはじめよう」 421
- ・ 形はずれ(外…)「仲間はずれ」 415
- ・ 副はたして(果)「はたして成功したのか」 573
- ・ 揺はなす(放・離)「はなして！！」 489  
⇒ 「人質を放したら」 498
- ・ 形はむかう(齒向)「わしにはむかう者」 573
- ・ 形はりあう(張合)「はりあって」 415
- ・ はる(張)「ピアノ線をはって」 419  
⇒ 「見張ってやがる」(複合)472
- ・ 形ひきうける(引受)「ひきうけました」 511
- ・ 副ひそかに(密)「ひそかに」 505
- ・ ひく(引)「ピリカの引力にひかれて」 537
- ・ 形ひっこむ(引込)「ひっこんでいられるか！！」 507
- ・ 形ひっかかる(引掛)「レーダーにひっかかる」 536

- ・ひらく(開)「会議をひらきたい」474
- ・ふせぐ(防)「反乱をふせげなかった」457
- ・**熟**ふたり(二人)「でもふたりじゃ」415
- ・へる(減)「腹がへった」437
- ・**昭48**ほしい(欲)「ぼくもこんなベッドがほしいな」442
- ・**助**ほど(程)「二十粒ほど」458
- ・**熟**まいご(迷子)「まいごのまいごのウサギくうん」427
- ・**形**まいる(参)「ま、まいった!!」595
- ・まかせる(任)「ぼくらにまかせてください」526
- ・**形**まきこむ(巻込)「危険にまきこむ」466
- ・**形**まきぞえ(巻添)「まきぞえにしたくない」440
- ・**形**まにあう(間合)「コップ一杯の牛乳でまいあうのよ!」452
- ・まよう(迷)「道にまよって」417
- ・**昭48**まわり(周)「そのまわり」422
- ・**措**まわる(回)「飛びまわり」(複合)420
- ・**当**みかた(味方)「パピにみかたする」496
- ・**副**みごと(見事)「みごと撃墜した」526
- ・むく(向)「むいた仕事」446
- ・むこう(向)「むこうまで走るんだ」422
- ・**昭48**むずかしい(難)「そんなにむずかしいの?」459
- ・**形**めざす(目指)「この小惑星帯をめざしている!!」555
- ・めし(飯)「晩めし」494
- ・**形**もつ(持)「このシーンを、クライマックスにもってこよう」431  
     「小さな電池だからそう長くもたない」434  
     ⇔「うちから持ってくる」424
- ・もと(元・原)「もとにもどったりする」477
- ・**形**もの(物)「こんなものが落ちてる」428
- ・やぶる(破)「ドアがやぶられてる」491
- ・ゆうべ(夕べ)「ゆうべあれから作ったんだ」443  
     (参考)「夕方にもどれば」494
- ・ゆたか(豊)「ゆたかで住みよい星です」458
- ・ゆるす(許)「ゆるしてください」437
- ・よこぎる(横切)「よこぎらなかった」432
- ・**措**よせる(寄)「よびよせる」(複合)489
- ・**昭52**よぶ(呼)「スターをよんでこい」426
- ・よろこぶ(喜)「よろこんで!」441
- ・**代**わが(我・吾)「わが手におちた」553



- ・形わかる(分、判、解)「わかった」 415
- ・揺わすれる(忘)「レッスンをわすれて」 453  
     ⇨「ぜったいに忘れることはありません」 596
- ・代われ(我・吾)「われもわれもと」 524
- ・代われわれ(我我)「われわれもそこに」 524

## (分析)

「ゆるす」(許)、「よろこぶ」(喜)、「のこす」(残)、「のぞむ」(望)、「あう」(合・会)、「あがる」(あげる) (上)など、特に漢字表記をしても問題がなさそうな物が仮名表記で統一されており、全集本の表記には一定の基準があったとしてよい。但し「出てこい！！」「でない」「このまま沈めるぞ！！」「ピリカをわれわれの手に取りもどせ！！」→「ピリカは平和をとりもどしました」など、同頁内、同齣内で表記揺れも見られ、徹底されていた訳では無さそうだが、大体において表記は統一されている。

先ず明確なのは当用漢字表の注意にある代名詞の仮名書きが徹底されていることである。作品内には代名詞を漢字で書いた例が「彼ら」 523 を除けば存在しない。「君」「誰」「僕」「私」「俺」「我」「何」などは使用されていない。この代名詞仮名書きの奨励は当用漢字の選定にも反映され、「之(コレ)」「此(コノ)」「其(ソノ)」「誰(タレ)」などが公用文・教科書等から忽ち姿を消すに至ったのはこの方針の致す所である。併し一部単語を除いて民間には滲透せず、やがて有名無実化した。平成 22 年には常用漢字の改正で「私(ワタシ)」「誰(タレ)」「俺(オレ)」等が公用文・教科書に復活し、この方針は名実ともに撤廃された。故にドラえもんの代名詞仮名書き徹底は少しく時代を感じさせるものになっている。キャラ付けの為に故意に一人称を仮名書きする例も漫画を含む文学作品には多いが、国語政策における代名詞仮名書き方針の為、ドラえもんなど、戦後昭和期の作品では、その仮名書きが文学的な意味を持つのか、ただ国語政策によるものなのかが分かりにくくなっている。

副詞についてははっきりしないが、代名詞同様現代では漢字表記が復活しつつある。現在「公用文における漢字使用等について」(平成 22 年内閣訓令第 1 号)において公用文で漢字で書くと定められている副詞のうち、「余り」「必ず」「直ちに」「突然」「僅か」「果たして」「全て」「無論」「特に」は本作品では全て仮名書きである。これによれば副詞の仮名表記も徹底されていると言えるであろう。

接続詞は本作品では使用例が少なく不明。

助詞・助動詞の仮名書きは徹底されていて漢字表記の例を見ない。

続いて動物名も徹底して仮名書きになる。本作品では、「イヌ」「ネズミ」「ホタル」などがそうである。現代では常用漢字内では原則漢字で書くことになっている。但し生物学の文脈では仮名書きも多いが、これは戦前からの慣習である。寧ろ当用漢字の方針は生物学の表記に影響を受けたとも考えられる。

当て字の仮名書きは現在の「公用文作成の要領」(昭和 27 年 4 月 4 日内閣閣甲第 16 号)にも一部受け継がれている。「勝手」「素敵」「素晴らしい」「味方」「面白い」などの仮名表

記は当て字に由来するものであろう。これらの仮名表記も徹底され漢字表記は一つも無い。

また、「公用文作成の要領」には形式名詞、漢字のもつ実質的な意味が薄くなっているもの、補助動詞を仮名書きするという項目がある。これもまた、本作品では徹底されているものである。形式名詞とは「動く事」「漫画を買う時は」等の「事」「時」などの類。補助動詞とは「見て来る」「やって見る」「食べて欲しい」等の「来る」「見る」「欲しい」の類。漢字のもつ意味が薄くなっているというのは定義が不明瞭であるが、例えば「ご覧に入れる」の「入れる」は実際に何か物があってこれを何処かに入れている訳では無い。「そうとも限らない」の「限る」は実際何処かを塀や何かで限っている訳では無い。このようなものを漢字のもつ意味が薄くなっていると言っている様だ。本作でも例えば「もつ」という単語が「クライマックスにもってくる」が仮名書きなのに対して「うちから持ってくる」が漢字なのは、前者では実際に何か物を持って来る訳では無いのに対して後者は実際に物(此処ではプラモのロボット)を持って来る為に漢字表記になっていると解釈出来る。上の表では形式名詞・補助動詞は仮名書きが自明なものとして省略し、漢字のもつ意味が薄くなっているというのに当て嵌まりそうなものには「形」と注記した。

「つくる」は原則「作る」表記で、ただ 505 頁に「つくる」表記が一例あるだけである。「でる」も原則「出る」表記だが、ただ 595 頁に「でる」表記が一例あるだけである。斯かる例は校訂のミス、或は単なる表記揺れと看做して「揺」と注記した。

「さしむける」の「さす」、「よびよせる」の「よせる」など複合語のうち単独使用が見出せないものは仮名書きの理由が形式的・補助動詞的故なのか否かが判断出来ない為、分析外とする。表では「措」と注記した。

では、残ったものはどうであろうか。教育漢字なのにも関わらず、「あう」(会・合)、「ゆるす」(許)、「むく」(向)、「あがる」(上)、「ひらく」(開)など、徹底的に仮名書きされていて且つその理由が此処までの分析ではよく分からぬものも尚多くある。ここが考察の肝であり、これが F 先生の拘りか否かを判断したいのである。

先ず昭和 48 年の当用漢字音訓改正表が反映されているかを確かめる。この時に当用漢字に新たに追加されたもののうち、教育漢字内のものについて、それが漢字表記になっているかを調べると、以下の様になる：

- ・下りる→仮名書き
- ・危ない→仮名書き
- ・挙げる→仮名書き
- ・後→仮名書き
- ・試す→仮名書き
- ・周り→仮名書き
- ・就く→仮名書き
- ・体→漢字
- ・探す→仮名書き

- ・ 転がる→仮名書き
- ・ 難しい→仮名書き
- ・ 入(ハ)る→漢字
- ・ 閉める→仮名書き
- ・ 欲しい→仮名書き

これに依れば、この時に追加されたものは殆ど仮名書きであると言えそうである。一応これを昭 48 と注記する。

続いて昭和 52 年教育漢字追加分が反映されているかを確認する<sup>2</sup>。

- ・ 巻く→仮名書き
- ・ 呼ぶ→仮名書き
- ・ 降りる→仮名書き
- ・ 困る→仮名書き
- ・ 姿→漢字
- ・ 捨てる→仮名書き
- ・ 染まる→仮名書き
- ・ 腹→漢字
- ・ 忘れる→仮名優勢
- ・ 幼い→仮名書き

これもまた仮名書きが殆どであるので、一応昭 52 と注記する。

続いて連載後の平成元年教育漢字追加分を調べる：

- ・ 昔→漢字
- ・ 豆→漢字
- ・ 夢→漢字
- ・ 束→仮名書き
- ・ 激しい→仮名書き

こちらは漢字表記が多いのが気になるところである。ただ、昭和 48 年以降に教育漢字になったもののうち、漢字表記されているものは 7 つあるが、その内 6 つが名詞であることに注意が必要である。

残ったものに見る共通点として、(1)高学年(4年生、5年生・6年生)で習う字、(2)この間(マ/アイダ)、開く(アク/ヒラク)など二通りの読み方が現れるもの、が多いように思える。併しこれを検証するには、他の漢字表記されているもののうち、高学年のものがどれくらいあるかを並べなければならないが、紙幅の関係で第 2 回以後の課題とする。

## (2)教育漢字でないにも関わらず漢字表記のもの

- ・ うつ(撃)「撃て！撃て！」586

---

<sup>2</sup> 改正音訓表時に追加されたものを除く。

- ・おしいれ(押入)「押し入れにしまっといた」436
- ・かげ(影)「敵の影さえない」576
- ・けむり(煙)「けむりのように消える」543
- ・しずむ(沈)「日が沈むよ」434
- ・しずめる(沈)「でないとこのまま沈めるぞ！！」
- ・つぶ(粒)「ライスは二十粒」458
- ・とまる(泊)「泊まりにおいでよ」442
- ・とらえる(捕・捉)「ぼくを捕らえたがって」457  
⇒「PCIAの長官をとらえて」479
- ・にがす(逃)「こんどこそ逃がしはせぬぞ！！」478
- ・にげる(逃)「魔法使いに追われて逃げるの」417
- ・ねむる(眠)「これで安心して眠れる」436
- ・ねる(寝)「スネ夫は寝ないの？」528
- ・はだ(肌)「お肌がきれいになるのよ」452
- ・ひるね(昼寝)「昼寝もさせてね」468

### (分析)

数は前項に比べてかなり少ない。これは、和語は教育漢字内表記を原則とするという仮説の妥当性を示唆するが、更なる検証の為には、教育漢字外の常用漢字の和語の仮名表記も調べ、その割合を比べてやる必要が有る。これも亦た第二回以降の課題であろう。

### (3)常用漢字でないにも関わらず漢字表記のもの

- ・かける(掛・懸・賭・架)「そこに賭けている」

### (分析)

数は圧倒的に少ない。常用漢字外のは漢語と合わせて4例しかなかった。常用漢字内表記であることは略ぼ認めてしまっても良いであろう。敢えて表外漢字を使っているのはF先生の拘りである可能性が高い。要注視。

## 漢語編

### (1)常用漢字にも関わらず仮名表記のもの

- ・副いちど(一度)「もういちど」
- ・副いっき(一気)「いっきに根絶やしにするのです」535
- ・副いっしょ(一緒)「おまえもいっしょに」498
- ・副いっせい(一斉)「いっせいに」523
- ・副いったい(一体)「いったいどこにあるの？」549
- ・副いっぱい(一杯)「いっぱい作って」416

⇒「コップ一杯」452

- ・副いっぺん(一遍)「いっぺんメロンを腹いっぱい食べてみたかった」445
- ・副いっぼう(一方)「いっぼう小惑星基地の空軍も」562  
「もういっぼうはどうなって」572
- ・えんりょ(遠慮)「えんりょなく」467
- ・おうえん(応援)「おうえんたのもう」415
- ・副おおぜい(大勢)「おおぜいの友だちを見すてて」437
- ・かつやく(活躍)「ラジコンがかつやくするときよ」556
- ・がまん(我慢)「どんながまんでもする」510
- ・形かん(勘)「かんづいて」489
- ・かんげい(歓迎)「大かんげい」467
- ・かんじん(肝心)「かんじんなところ」472
- ・かんとん(簡単)「かんとんな着火装置を作ろう」420
- ・くろう(苦勞)「くろうしたかいがあった」431
- ・代くん(君)「ウサギくんは？」426
- ・けっさく(傑作)「けっさくをとりましょう」416
- ・けんめい(懸命)「一生けんめい走る」422
- ・ごうか(豪華)「二階だてとはごうかだなあ」441
- ・こうふん(興奮)「そうこうふんしないで」459
- ・副こんど(今度)「こんどはとめてみよう」
- ・副さっそく(早速)「さっそくはじめよう」421
- ・ざんねん(残念)「それはざんねん」453
- ・副しだい(次第)「申しあげているしだい」583
- ・副じつは(実)「じつはぼくらを見張ってるあのホテル」477
- ・形じゃま(邪魔)「おじゃまします」442 「じゃまする気なんだ！」451
- ・副じゅうぶん(十分)「じゅうぶんだろ」420
- ・副ぜったい(絶対)「もう二度と……ぜったいに……」552
- ・そうぞうしい(騒騒)「なんだそうぞうしい！」584
- ・形だいじ(大事)「どっちがだいじだ！！」494
- ・連たいした(大)「たいしたこと」446
- ・形だいじょうぶ(大丈夫)「だいじょうぶと思う」465
- ・副だいぶ(大分)「だいぶつかれて」422
- ・形たいへん(大変)「つかまったらたいへん」422
- ・形ちょうだい(頂戴)「うちにいてちょうだい」467
- ・副とくに(特)「とくにドラえもんさんなんか」527
- ・助とたん(途端)「飛びたつたとたん」523
- ・副とつぜん(突然)「とつぜん探査球が消えて」465

- ・形ふう(風)「どんなふうに」527
- ・ふしぎ(不思議)「ふしぎはないさ」439
- ・形ぶん(分)「これまでとったぶん」429
- ・形べつに(別)「べつにたいしたことじゃないです」446
- ・形へん(辺)「このへんで」423
- ・へん(変)「へんな道具」552
- ・形ほう(方)「スネ夫のほうはどうなってるだろう」418
- ・代ぼく(僕)「ぼくの名はパピ」437
- ・副ほんとう(本当)「ほんとうにありがとうございました」521
- ・むだ(無駄)「むだ口」511
- ・副むろん(無論)「むろん手は打っております」573
- ・めいわく(迷惑)「みなさんにめいわくがかかる」440
- ・ゆだん(油断)「ゆだんしてるよ!!」479
- ・ようしゃ(容赦)「情けようしゃのない」455
- ・よけい(余計)「よけいなおしゃべり」511
- ・形らん(覧)「ごらんにいれます」473

### (分析)

副詞の仮名書き率は凄まじい。上の表では副詞的に用いることのある語にも副と注記した。副詞のうち、漢字表記されているものを抜き出す作業を経れば副詞の仮名書きの原則がより明瞭になるであろう。

形式的なものも和語に準じて仮名書きが多い。例えば「スネ夫のほうはどうなっている」の「ほう」(方)は具体的な方角がある訳では無いし、「これまでとったぶん」の「ぶん」(分)は具体的に何かを分けた訳では無い。このようなものは概して仮名書きになる傾向があるようである。

さて、他の物であるが、「かんたん」「ざんねん」「めいわく」「ゆだん」「がまん」「おうえん」「くろう」「ふしぎ」など、日常の砕けた話し言葉でもよく使われるものが多いことに気づく。一方、「自由同盟」「大統領」「独裁者」「緊急発進」「官邸」「不穏分子」など堅めな表現は表内である限り基本的に漢字表記である。「判決をいいわす。被告は起立せよ。元大統領パピに対し、ピリカ大法廷は死刑を宣告する。処刑は明後日ギルモア広場で執行される。」525、「戦闘艇には爆薬のほかに無数の小型発信機がしこんであったのです。発信機は散らばって手近の物体に吸着します」534、「北部山岳地帯に流星落下。おかしなことに地震計はこの流星を記録していません。」539 など、砕けた会話では無く正式な所で話すような言葉や文章語風なものでは漢語は教育漢字でなくとも全て漢字表記になっていることが分かる。

## (2)常用漢字でないにも関わらず漢字表記のもの

- ・そうそふ(曾祖父)「祖父の生まれた日、曾祖父は……」 583
- ・たいかん(戴冠)「戴冠式がおこなわれる」 523
- ・ようさい(要塞)「ワルモンダー要塞」 420

## (分析)

和語(3)に同じ。

## 4、結語・展望(第一回)

以下本稿の結論を述べる。和語は昭和48年以前の教育漢字に含まれるものを用いている傾向が見られた。また今回の調査から、(イ)小学校高学年以上で習うものは仮名表記が原則、(ロ)普通名詞は教育漢字外でも常用漢字であれば漢字表記をする傾向が高い、という仮説が改めて立てられた。2回目以降に検証する。

又、動物名は仮名表記、形式名詞、副詞、代名詞は仮名表記など、当用漢字表の注意・公用文作成の要領と言った内閣が交付する表記法に準ずる所が多いことも分かった。

又第2回以降、より精確なデータを得る為、以下の様な調査を行う：

・動物名・副詞・代名詞等の仮名表記は当用漢字表など戦後の国語改革に依る所が大きいのか否を知るため、昭和21年以前の文献に於ける表記の実態を調査。

→若し国語改革に依る所が大きいのであれば、ドラえものの表記も国の出しているマニュアルに従っていることになる。そうなれば、漫画家が一つ一つの単語を「公用文作成の要領」などで表記を確認して書くことは大変なので、出版社の校訂が多く入っている可能性が高い。

・てんコミ本等、異本との比較。

→何処が出版社・編集者の校訂なのかが推測できる。

・別の大長編との比較。

→自説の根拠を補強。

・小学校高学年以上で習う和語の表記調査

・普通名詞の表記調査

→第一回の調査で得られた仮説の証明。

・外来語・オノマトペ以外の片仮名使用の調査

→漢字以外の表記調査の一。

更なる綿密な調査を経て「ドラヤキ」のようなF先生の拘りを見出したいと思う。